

平成 23 年度入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号	番
---------	---

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 快晴に恵まれる。 (2) 勇ましい行進曲。
 (3) 屋根を修繕する。 (4) 自分の限界に挑む。
 (5) 適切な措置をとる。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 木のミキの太さを測る。 (2) 情報をデンタツする。
 (3) 彼はホガらかな性格だ。 (4) テンケイ的な日本建築。
 (5) リレーの選手のコウホに選ばれる。

3 「元気な声であいきつをして先生からほめられる。」の——線の

部分と、文法的に同じ意味・用法のものはどれか。

- ア 雄大な山々が真つ赤な夕日に染められる。
 イ 私は好き嫌いがなくなっても食べられる。
 ウ 来週に控えた運動会の天気が案じられる。
 エ 大学の先生が私たちの中学校に来られる。

4 「我が家では猫がいちばん大きな顔をして過ごしている。」の

——線の部分の意味として適切なものはどれか。

- ア 表情 イ 影響 ウ 面目 エ 態度

5 次の文章は学校祭で放送する原稿の下書きである。——線の部

分のうち敬語の使い方が正しいものはどれか。

来場の皆様にご連絡をなさいます。ご迷惑をおかけしまし
 た食堂の混雑が解消されましたので、ぜひご利用ください。
 すでに食券をお持ちで、まだ食事をいただいていない方は、
 ご注文の品とウお引き換えします。なお、食券との引き換え
 は、午後二時までとなっておりますので、お早めにエお参りくだ
 さい。

6 「停止線」と熟語の組み立てが同じものはどれか。

- ア 急上昇 イ 幼稚園 ウ 半永久 エ 心技体

7 「ピストルがプールの硬き面にひびき」(山口哲子)と同じ季節を

詠んだ俳句はどれか。

- ア 寒雷に日のさしかげる船障子 (石原舟月)
 イ 葡萄食ふ一語一語の如くにて (中村草田男)
 ウ 葉桜の中の無数の空さわぐ (篠原 梵)
 エ 初蝶 来何色と問ふ黄と答ふ (高浜虚子)

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

ある時、鷲(注1)かたつぶりを食らばばやと思ひけれど、いかんともせん事を知らず、思アひわづらふ所に、鳥カかたはらより進み出でて申しけるは、「このかたつぶりをほろぼさん事、いとやすき事にてこそ侍れ。我申すべきやうにし給キひて後、我にその半分をあたへ給イはば、教へナららん」といふ。鷲うけがうてそのゆゑを問ふに、鳥申しけるは、「かのかたつぶりを掴ツみあがり、高き所よりおとし給ハはば、その殻たちまちに砕けなん」といふ。(1)案のごとくし侍りければ、たやすく取つてこれを食ふ。

そのごとく、たと(注2)ひ権門高家の人なりとも、わが心をほしいままにせず、智者の教へに従ふべし。そのゆゑは、鷲と鳥をくらべんに、(2)その徳などはまさるべきなれども、かたつぶりのしわざにおいては、鳥もつともこれを得たる。事にふれて事ごとに人に問ふべし。

〔「伊曾保物語」から〕

(注1) かたつぶりを食らばばやカかたつむりを食べたいものだ

(注2) 権門高家の人ニ権威があり身分の高い人物

1 ゆゑは現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 ア思イひわづらふ ウあたへ エ問ふ イいふ
の中で、主語にあたるものが異なるものはどれか。

3 (1)案のごとく とあるが、「案」とはどういう考えか。文末が「という考え。」となるように、十五字以内の現代語で書きなさい。ただし、文末の言葉は字数に含めない。

4 (2)その徳などはまさるべきなれども の意味として、最も適切なものはどれか。

ア 鳥の本来の能力が鷲を上回っているはずはないけれども
イ 鷲の取り分が鳥の分よりも多くなるはずはないけれども
ウ 鳥の高い評判が鷲のおかげで広まるはずはないけれども
エ 鷲のもつ技量が鳥よりも優れているはずはないけれども

5 本文からうかがえる筆者の考えとして、最も適切なものはどれか。

ア 自然界には、人間が進んで学ぶ必要のある数多くの真理が含まれているため、動物の習性にも目を向けるべきである。
イ 物事においては、自分ですべて対処しようとせず、状況によりそれぞれの道に精通した者に助言を求めるべきである。
ウ 困難に直面した際には、人間は安易に解決策を他者に聞くことなく、実際に自分が努力したうえで尋ねるべきである。
エ 世の中では、豊富な知識をもつ者が大きな利益を得るが、そのことに満足せずに見聞を広めようと努めるべきである。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑨は形式段落の番号である。

- ① 本を読むことは、よいことだ。たとえ、それが住居の貧困の反映であつても、個人が自由な想像力によつて、それぞれの精神の個室をもつのはのぞましいことだ。じつさい、そもそも「個人」というのは、そういうふうにして成長してゆくものだからである。
- ② しかし、家庭のなかの書物というものを考えてみると、これはずいぶん、ふしぎな品物のような気がする。なぜなら、本は家庭の備品のひとつではありながら、結局のところ、個人にぞくするものであるからだ。家庭の本棚にならんでいる何十冊、あるいは何百冊の本の背表紙は、家族のみんなが毎日ながめているのに、その中身は、家族共有のものではないのである。⁽²⁾その点で、家庭にある他のもろもろの備品と書物とは、性質がちがうのだ。
- ③ それはそれでよい。ちようど、個室をのぞきこまないことが礼儀であるように、精神の個室ものぞきこまないほうがよいのかもしれない。お互い、好きな本を読んで、それぞれの世界をたのしめば、それでよい、というべきなのかもしれない。
- ④ しかし、本は、いつぼうで個人にぞくするものでありながら、同時に、だれでもが入ることのできる個室、つまりホテルの部屋のような ももっている。だれかが使用中であるかぎり、そこにふみこんではならないが、空室になったときには、だれが使つてもかまわない。主婦が買いこんだ文学全集を夫や子どもが読むことはいつこうにさしつかえないことだし、子どものマンガを親が読んだつていい。表題はまったくちんぷんかんぷんで

あつても、夫の読んでいた経営学の本を、妻がひもといつてみてもかまわないはずだ。

- ⑤ そして、わたしは、そういう密室の交換がこれからの家庭ではたいへんだいじなことであるような気がする。
- ⑥ 人間がことばで表現できるものは、きわめてかぎられている、と哲学者はいう。それは家族のなかの人間関係についても真実だ。夫婦、親子、毎日顔をつきあわせておしゃべりは果てしなくつづけられているけれども、それによつて、はたしてお互いがどれだけ「理解」しあっているかは、わからない。相手の心の深い部分か、どんな構造になっているのかは、ほんとうに、見当がつかないのである。
- ⑦ その見当のつかない部分を知ることにはできないし、また、知る必要もない。「個人」どうしのつきあいというのは、そういうものなのだ。しかし、もしも、その心の奥深い部分をつくつているもののひとつが書物であるとすれば、まえにのべたような理由によつて、お互いの書物を交換することが家庭のなかで考えられてもよいのではないか。
- ⑧ 書物を交換する、というのは、じぶんの体験した異質の世界を見せあう、ということである。そして、だれにでも経験のあることだろうが、自分が読んでみて、ほんとうにいい本だ、と思つた本は、ひとにも読ませたくなるものだ。読んでいるあいだは、完全にじぶんだけの世界だが、その世界に、じぶんの親しいひとをひきずりこんで経験を共有したくなるのである。そういう経験の交換が、家族のそれぞれの読書生活のなかでおこなわれるのは、すばらしいことだ。

⑨ ひとの日記や私信を読むのは失礼なことだ。だが、書物は、いっぽうで私的でありながら、他方では共有のゆるさるものである。夫婦のあいだで、あるいは親子のあいだで、お互いの本をとりかえて読むことで、家族は個人を尊重しながら、相互のより深い理解への道をあゆむことができるかもしれない。

(加藤秀俊「暮しの思想」から)

1 に当てはまる語句として最も適切なものはどれか。

ア 閉鎖性 イ 利便性 ウ 社会性 エ 象徴性

2 (1) 精神の個室 とあるが、これと同じ内容を表している語句を⑥段落から抜き出しなさい。

3 (2) その点で、家庭にある他のもろもろの備品と書物とは、性質がちがうのだ とあるが、これを説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア 他の備品は家族内で同じように使えるが、書物は個人の好みに従って楽しむという私的な面があるということ。

イ 他の備品は家族で使うものだが、書物は世間の事柄を取り上げているために多くの人が使用できるということ。

ウ 他の備品は家族であればだれでも使えるものだが、書物は同じ感性をもつ場合に限って共有できるということ。

エ 他の備品は家族内でいつでも使えるが、書物はその持ち主が読んでいないときにだけ借りて読めるということ。

4 (3) 経験の交換が、家族のそれぞれの読書生活のなかでおこなわれるのは、すばらしいことだ とあるが、それはなぜか。その理由を、「経験の交換」の内容を明らかにして五十字以内で書きなさい。

5 段落の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア ①段落は、読書に対する一般的な考え方を冒頭に示すことで筆者の考え方との違いに言及している。

イ ②段落は、家庭内の書物に対する筆者の印象について説明していくことでその特性に言及している。

ウ ③段落は、身近な比喩を用いることで家庭において書物が果たしている役割の変化に言及している。

エ ⑥段落は、哲学者の考えを引用することで人間関係を保つ上での言語表現の必要性に言及している。

6 本文の内容を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア 書物の意味を検討し、読書を軽視しがちな現代の傾向を指摘してその対応について論じている。

イ 書物の性質を確認し、読書を個人的なものとする認識を批判してその欠点について論じている。

ウ 書物の歴史を分析し、読書形態の移り変わりを挙げてその共通点と相違点について論じている。

エ 書物の特性を考察し、読書のひとつのあり方を提案してその意義や可能性について論じている。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

寛政二(二七九〇)年、江戸深川に店を構える鮎職人の新吉は、より味の良い柿鮎(注1)を作るために日々努力を重ねていた。ある日、新吉の知り合いであり武家に仕える新兵衛は、主人から急な来客をもてなすために新吉の柿鮎を用意するように言われ、店を訪れる。

(注2) 「いい按配(注2)にてえのもの、おかしな言い方になりやすが。」

新吉は売れ残った二十折りの山を、新兵衛に見せた。新兵衛は

(注3) 怪訝(注3) そうな顔つきで、揺れている売切れ札を見た。

(1) あれは、おれの見栄(注3)でやすから。」

新吉が笑うと、新兵衛も目元をゆるめた。

「これでよけりゃあ、持ってつてくたせえ。」

「そいつは願ってもないが……。」

新兵衛は顔つきを元に戻すと、相手の顔つきから、

なにが言いたいのかを新吉はすぐに察した。

「鮎は、でえじょうぶでさ。いまの時季なら、一日おいたって傷むもんじゃありません。」

手早くひとつの折詰(注4)を開いた新吉は、食べやすい大きさに切り分けた。(2) それを新兵衛と、供の女中(注4)に味見させた。

新吉が調理したのは、四ツ半(午前十一時)前である。柿鮎は、折詰のなかでしっかりと熟(注5)れていたのだろう。酢飯にしいたけなどの具の味が染み込んで、格別の美味(注5)さが生まれていた。

新兵衛は、心底から味に感心していた。

(注6) 「まだ、十九折りも残っておりやす。入用(注6)なだけ、持ってつてくたせえ。」

「旦那様(注6)から言付(注6)かったのは七つだ。」

新兵衛は、七折りの柿鮎があれば充分だという。

「そんなことを言つてねえで。」

新吉は三折りだけ取りおき、十六折りの折詰を新兵衛と女中に差し出した。

「お客さんに出した残りは、みなさんで食つてくたせえ。」

(3) 「分かった。」

新兵衛は余計な遠慮は口にせず、十六折りの柿鮎を女中と手分けして抱え持った。

「代金は、あらためて払いにくる。」

「がつてんでさ。」

新吉は威勢のいい返事で、新兵衛の言い分を受け入れた。新吉も余計な遠慮は口にしなかった。店先に出ると、新兵衛たちが亀久橋を渡り終わるまで見送った。

朝からいやなことが続いたが、夕刻近くになって様子が大きく変わった。

熟れると、あんな味になるのか。

新兵衛たちと口にした鮎の美味さを、新吉は思い返した。

いままで、残り物の柿鮎を口にしたことは何度もあった。が、調理してから二刻半(五時間)も過ぎた鮎を食べたことはなかった。鮎は生ものである。二刻半の間、放つておくことはしなかった。

いまの時季なら、一日おいても平気だと言いつつ、それを食べたことはなかった。

ことによると、新しい美味さと出会えたのかもしれない……。

鮎の仕上げを、明日から一刻(二時間)ばかり早めてみよう、新吉はあれこれ段取りを思い描いた。

晴れた日と雨降りとは、熟れ方が違う。

春夏秋冬、季節ごとに熟れ方が違う。

この工夫をしつかりやれば、いまままでにない柿鮎の美味さができるかもしれない。

(4) 氣持ちの昂ぶつた新吉は、土間から出て雨を顔に浴びた。暮れな
ずむ通りを歩き交う者はいない。

雨の心地よい冷たさを、新吉は存分に味わっていた。

(山本一力「銀しゃり」から)

(注1) 柿鮓||酢飯と魚肉などの具を箱に詰め、押し固めた鮓。

(注2) 按配||具合。

(注3) 怪訝||事情がわからず不思議に思うこと。

(注4) 女中||家事やその手助けなどをする女性。

(注5) 入用||必要。

1 に当てはまる語句として最も適切なものはどれか。

ア 言葉を飾った イ 言葉を濁した

ウ 言葉を改めた エ 言葉を並べた

2 (1) あれば、おれの見栄みえでやすから とあるが、「売切れ札」に表わ
れている新吉の「見栄」とはどのようなことか。二十五字以内で書
きなさい。

3 (2) それを新兵衛と、供の女中に味見させた とあるが、新吉が柿
鮓を二人に味見させたのはなぜか。

ア わざわざ鮓を買いに来てくれたのだから、何かお礼をしなけ
れば申し訳ないと思ったため。

イ 夕方まで待つていたことによつて、鮓に格別の美味さが生ま
れたことを知つてもらうため。

ウ 作つてから時間が経つてゐるが、鮓は悪くなつていないとい
うことをわかつてもらうため。

エ 一折りくらい減つたとしても、それによつて残りの鮓がすべ
て売ればよいと思つたため。

(3) 4 新兵衛は余計な遠慮は口にせず とあるが、「余計な遠慮」の説
明として最も適切なものはどれか。

ア 二人の間で、好意からの申し出を断るのは無用な氣遣いだ
ということ。

イ 二人の間で、商売のための援助を断るのは無用な氣遣いだ
ということ。

ウ 二人の間で、感謝からの申し出を断るのは無用な氣遣いだ
ということ。

エ 二人の間で、出世のための援助を断るのは無用な氣遣いだ
ということ。

5 (4) 氣持ちの昂ぶつた とあるが、新吉の氣持ちが「昂ぶつた」のは
なぜか。二十五字以内で書きなさい。

6 本文の特徴を説明したものととして、最も適切なものはどれか。

ア 新吉の心の動きを具体的に描いた場面によつて、新兵衛との
心の結びつきが効果的に表現されている。

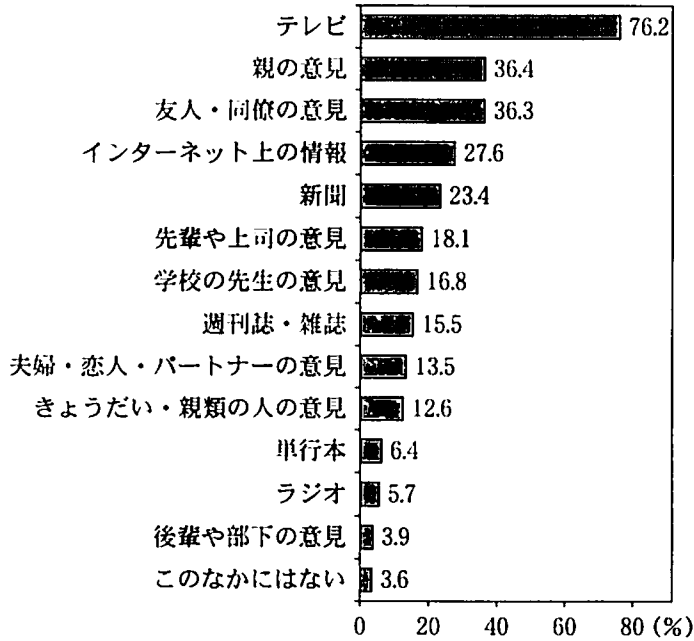
イ 客入りの少なさを強く印象づけるために擬態語が用いられ、
新吉の氣苦労が効果的に表現されている。

ウ 時間の経過を強調するために倒置法が用いられ、柿鮓を作る
新吉のあせりが効果的に表現されている。

エ 会話の様子を描いた場面と内面を描いた場面によつて、新吉
の人柄や心情が効果的に表現されている。

5

質問 最近の世の中のできごとについてのあなたの考え方に強い影響を与えているものをいくつかあげてください。



調査対象は、満10歳から満29歳までの青少年。複数回答可。
 (内閣府 第5回情報化社会と青少年に関する意識調査(平成19年)から作成)

左のグラフは、内閣府が行った「第五回情報化社会と青少年に関する意識調査」の結果の一部である。グラフからは、世の中のことについて考えるときに、人はさまざまなものから影響を受けていることが分かる。このグラフを参考にして、「私が今の世の中について考えるとき、影響を受けているもの」というテーマで、あなたの考えを書きなさい。

なお、自分の考えとその理由を明確にすること。また、国語解答用紙(2)に、二百四十字以上三百字以内で書くこと。